

Tokyo Midtown Award 2015 News Letter vol.3

**アートコンペ 最終審査へ進む6作品が決定！**

2015年9月28日(月) 最終審査会開催

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘・応援を目的とした「Tokyo Midtown Award 2015」を、<アートコンペ>と<デザインコンペ>の2部門で開催しています。開業以来、東京ミッドタウンは『“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)”を創造・結集し、世界に発信し続ける街』をコンセプトに街づくりを進めてきました。「Tokyo Midtown Award」は、その一環として2008年より毎年開催しているアートとデザインのコンペティションで、今回で8回目の開催となります。

本ニュースレターでは、最終審査に進むアートコンペの作品紹介や見どころ、今後のスケジュールについてお知らせいたします。

目次

- ◆ **アートコンペ:2次審査を終了~250組の応募から最終審査に進んだ6名~**
- ◆ **アートコンペ:2次審査通過作品紹介**
- ◆ **アートコンペ:今後の審査について**
- ◆ **オーディエンス賞のご案内**
- ◆ **本年度受賞トロフィーについて**

◆ **アートコンペ:2次審査を終了~250組の応募から最終審査に進んだ6名~**

テーマを作家自身で設定し、都心の複合施設である「東京ミッドタウン」に展示するサイトスペシフィックな作品を提案していただくアートコンペ。

250組の応募者の中から選ばれた12名が、7月13日(月)に行われた2次審査に挑みました。

2次審査の公開プレゼンテーションでは、作品のコンセプトや制作についての細かな説明を模型などを使用しながら制限時間内に審査員に提案を行いました。審査員からの厳しい質問に答えるコミュニケーション力や、過去実績なども影響する審査で、最終審査に進む6作品が決定しました。



※2015年7月13日(月)に開催された2次審査の様子

これらの6作品は、実際に東京ミッドタウン プラザB1Fのパブリックスペースにて展示され、2015年9月28日(月)に行われる最終審査(実物審査)にて、グランプリ、準グランプリ、優秀賞を選出します。この最終審査会のご取材・ご見学もいただけます。6名の精鋭が自らの作品について最後のプレゼンテーションを行う場面は、コンセプトからパブリックアートとしての在り方までが問われる本アワードならではの見どころとなります。

**2次審査を終えての審査員からのコメント**

審査員・清水 敏男氏

東京ミッドタウン・アートワークディレクター/学習院女子大学教授

今年の2次審査は作品のマケット(模型)の完成度が高かったことが印象的である。各候補者はかなり作りこんだマケットを提出し、書類ではわからなかった作品のクオリティと意味を知ることができた。候補者による自作の説明では、作品の意図を明確に語る者もいたが、自己の長所に気付かない者もいた。迷いは作品に忠実に反映してしまう。全般的に自己のプロデュース能力はかなり向上している。回数を重ねることの効果は年々出てきていると思われた。

◆ アートコンペ:2次審査通過作品 ※五十音順



【作品名】 Deadpan(デッドパン)

【作品コンセプト】

日常の中の、普段意識しない「死」の状態を再現することがテーマです。普段生活している多くの人にとって「死」とはあまり意識上にながってこないと思います。「割といつも近くにいるよ。」と言わんばかりに無表情で見つめている「死」。
時折、存在を思い出し、恐怖ではなく静かな畏敬を感じる「死」。「生」が溢れているこの場所で、ひっそりと佇む、淡い「死」を目にすることは、人生の中の死の存在そのもののよう感じます。

【素材】 真鍮棒



阿部 岳史(あべ たけし) /アーティスト

1977年 東京都生まれ / 東京都在住
2000年 東北芸術工科大学美術科彫刻コース卒業
2003年 同校研究生修了

<展覧会>

2013年「幽玄」(H.P.FRANCE WINDOW GALLERY) など

【最終審査へむけて 審査員コメント】

日常のなかの“メモトモリ”は都市の中で必要な要素である。プレゼンテーション資料の緻密さと、細かな構造から透けて見える世界観は綺麗だと感じた。吊り方を工夫してほしい。



【作品名】 東京的遭遇:六本木(とうきょうてきそうごう:ろっぽんぎ)

【作品コンセプト】

地下から地上へ繋がる出口。そして、出口に切り取られた地上の風景との断片的な出会い。莫大な地下空間を移動できるようになった我々にとって、それはどこか不安を伴うような、都市的かつ東京的な入口だ。ロッカーという画一的な佇まいと不明瞭な空間性をもつアイテムを都市への扉とし、様々なものが断片的には垣間見えながらもその内側の不明瞭さが増大し続ける、そんな現代における大都市「東京」の在り方への違和感を込めたい。

【素材】 ミクストメディア(ロッカー、コンクリート、石膏等)



上坂 直(うえさか なお) /学生

1991年 富山県生まれ / 東京都在住
2015年 武蔵野美術大学造形学部卒業
2015年 同大学造形学部修士課程入学
<展覧会>

2015年 「武蔵野美術大学 卒業・修了制作展」

【最終審査へむけて 審査員コメント】

場所性と意外性がある作品。内と外がつながるおもしろさもある。作品のアイデアは大都市東京的でチャーミングだ。プレゼンテーション中にてできた「その土地土地の断片との出会い」という表現にワクワクした。コンテンツやコンテンツ量、ディテールの完成度に注意してほしい。



【作品名】 グランドライン

【作品コンセプト】

正体不明の覆面を被った人達。彼らは扉の前で行列をつくる。この先には何があるのか、何のために並んでいるのか。明確な答えは分からないけれど、想像すると幾つものドラマが生まれてくる。点にする情報を集めて、繰り広げられる物語を考えるのはあなた自身。それはあなたが作り上げたもの。作品を前にして、あなたとわたしの物語を一緒に語り合おう。きっとそこには新たな出会いと、多様な価値を受容する美しい未来への第一歩が生まれるのだから。

【素材】 ジェルトン材、アクリル絵具



尾花 賢一(おばな けんいち) /美術作家

1981年 群馬県生まれ / 千葉県在住
2004年 筑波大学芸術専門学群洋画専攻卒業
2006年 筑波大学芸術研究科洋画専攻修了

<受賞歴>

2013年 「TDW ART FAIR / 審査員特別賞」

2014年 「LUMIN meets ART AWARD / 準グランプリ」

【最終審査へむけて 審査員コメント】

場所性をうまく使い、通行する人たちにもアピールする、多義的で魅力的な作品である。設置する場所が公共の通路なので、自身の作家性もよく考え、制作してほしい。



【作品名】 Ebb(えぶ)

【作品コンセプト】

各家へお参りに行くと、床の間には多くの文化が同居していることに驚きます。特に「水引」という文化に、仏教や神道といった「信仰」ではない日本独自の「こころ」を感じました。日本は現在、社会的にも物理的にも大きな波の危険に晒されていますが、どんな波に飲まれても文化は形を変えて残ります。中国の文化を日本流にアレンジした水引ですが、それを再度アレンジし、信仰に依存しない「新たな形の祭壇」を残そうとしています。

【素材】 木、鉄、鏡、神棚、既存の伝統素材(水引)



© Lukasz Gasiorowski

風間 天心(かざま てんしん) / 美術家 / 僧侶

1979年 北海道生まれ / 北海道在住

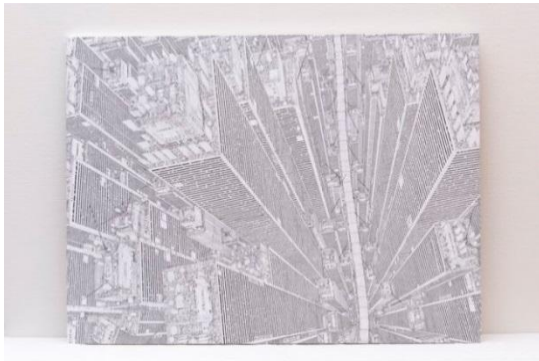
2006年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科 卒業

2008年 武蔵野美術大学造形研究科美術専攻油絵コース 修了
<受賞歴>

2011年「武蔵野美術大学パリ賞」受賞(武蔵野美術大学) ほか

【最終審査へむけて 審査員コメント】

過去作の実績と多様性、僧侶という立場から捉えたアートという表現メディアに可能性を感じた。素材と主題、視覚効果の意外な組み合わせとおもしろさがあった。日本人の精神性の特徴をよく表現している。作品の構造と設置方法をよく検討してほしい。



【作品名】 五金超大国Ⅱ(ごきんちょうたいこくⅡ)

【作品コンセプト】

自分自身の居場所や存在意義を見失ったとき、孤独や不安を満たしてくれる自分だけの世界に閉じこもりたいと願いました。

この作品は憧れや切望するものだけに囲まれた自分の心の居場所であり、自分が信じていることができる世界の姿です。

【素材】 丸ペン、黒インク、ケント紙、木製パネル



田島 大介(たじま だいすけ) / アーティスト

1993年 奈良県生まれ / 愛知県在住

2015年 愛知県立芸術大学美術学部美術科 彫刻専攻卒業
<展覧会>

2015年「YOUNG ART TAIPEI2015」(台北)

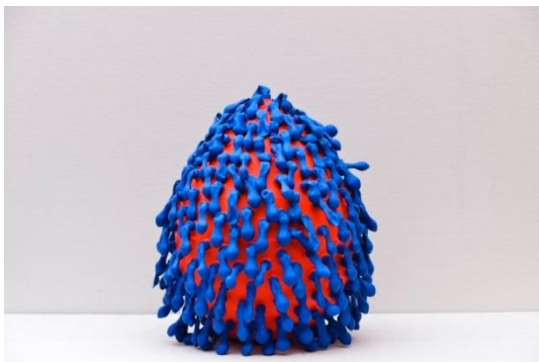
2015年 個展「怒りと圧力の街」(LADgallery / 名古屋)

【最終審査へむけて 審査員コメント】

細密な都市表現が圧倒的。描くことの”力”を感じさせる。

緻密さ、人間離れた描写力、人工的なものにとっても人間的な作業とのギャップが面白い。

設置方法をよく検討してほしい。



【作品名】 未確認生命体(みかくにんせいめいたい)

【作品コンセプト】

突如出現した何かが鼓動を始めた。産み落とされたのか、異次元から現れたのかはわからない。

それは今にも内部から何かが飛び出してきそうだ。何かはわからないが中に生命体がいるのは確かだ。

【素材】 鉄、ゴム風船、送風機



三上 俊希(みかみ としき) / 学生

1991年 静岡県生まれ / 愛知県在住

2014年 常葉大学造形学部卒業

2014年 愛知県立芸術大学美術研究科入学
<受賞歴>

2015年「アーツチャレンジ2015」 / 入選

2015年「グランシップ アートコンペ2015」 / 奨励賞

【最終審査へむけて 審査員コメント】

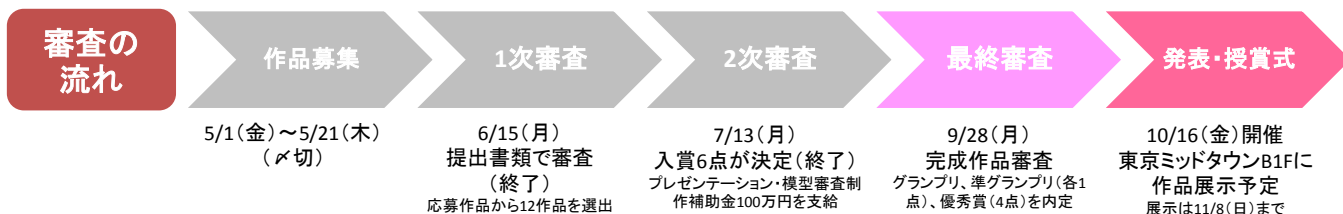
不気味さと笑える要素があり、単純なくみだが、ひきつけられる。

過去作の実績に信頼がもて、静音メカニズムの実験が十分であった。

通り過ぎる人を惹き付けるということをよく考えてほしい。

◆ アートコンペ 今後の審査について

9月28日(月)の最終審査にてグランプリ・準グランプリを各1点、優秀賞の4点を決定します。受賞作品は、10月16日(金)の授賞式にて発表いたします。



◆ 最終審査会について

最終審査に挑む6名の作品は、9月18日(金)より東京ミッドタウン プラザ B1Fで設置作業を開始し、9月28日(月)に現地で最終審査会を行います。詳細およびご取材をご希望の方は事前にご連絡ください。

日時 : 9月28日(月) 10:00~12:00
 10:00~ 作家による最終プレゼンテーション
 11:00~ 審査員による最終審議

場所 : 東京ミッドタウン プラザB1F 展示スペース

審査員 : 児島やよい、清水敏男、土屋公雄、
 中山ダイスケ、八谷和彦(敬称略、五十音順)



昨年の最終審査の様子

◆ 本年度受賞トロフィーについて

「Tokyo Midtown Award」の各受賞者には、毎年、クリエイターでもある審査員が生み出すトロフィーが贈呈されます。

今年は、<デザインコンペ>審査員の小山薫堂氏が企画したものを、鈴木啓太氏がデザインしました。鈴木氏は「Tokyo Midtown Award 2008」のデザインコンペで水野学賞を受賞し、現在は水野学氏と「THE」を展開するなどプロダクトデザイナーとして活躍されている、注目のデザイナーの一人です。



Tokyo Midtown Award 2015
トロフィー イメージ



受け取ったその瞬間だけではなく、平凡な日常をワクワクさせるようなトロフィーにしたいと思った時、「祝杯」というキーワードが閃いた。ただし、すぐに飲んではいけない。「Tokyo Midtown Award」受賞という輝かしい経歴をきっかけに、人気アーティストになるであろう10年後...自分の原点を見つめ直す祝杯として使って欲しい。それゆえ、長期熟成に耐えられる最高峰の日本酒「満寿泉プラチナ」を詰めた。つまりこれは、未来の自分と乾杯するトロフィーなのだ。

小山 薫堂

放送作家／脚本家／東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科長



小山さんから日本酒を使いたいという提案があった際、そのボトルをスノードームに見立て、トロフィーにすることを思いついた。日本酒の中に浮かんだ箔が、まるで受賞者を祝福するかのようきらきらと舞う。

鈴木 啓太

PRODUCT DESIGN CENTER／THE／ディレクター&プロダクトデザイナー

◆ オーディエンス賞のご案内

10月16日(金)の授賞式で発表する「Tokyo Midtown Award 2015」デザインコンペ、アートコンペの各コンペ受賞作品は、10月16日(金)~11月8日(日)までプラザB1F展示スペースにて展示いたします。

また、東京ミッドタウンのデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」期間中の11月3日(火・祝)まで、同会場で作品への一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定します。



昨年のオーディエンス賞 投票の様子